



心をこめて精一杯活動実施中

加古川市立
志方東小学校



令和 5 年度
学校便り 第 43 号
R6.3.6 発行

6 年生への感謝をこめて 送る会開催

1 日(金)8 時 15 分より体育館において、6 年生を送る会を開催しました。児童会主催の大事な行事ですから、1 年生から 5 年生までこの日のために、6 年生に感謝の気持ちを伝えようと準備を頑張ってきました。特に、後を任される 5 年生は会の準備、進行と十分に活躍してくれ、頼もしささえ感じました。1,2 年生からは手作りのプレゼントを渡し、3,4,5 年生はそれぞれ趣向を凝らしたゲームやクイズで楽しませてくれました。5 年生による「思い出インタビュー」では、やはり「MiracleZ」の話題が多く、「修学旅行」や「日々のバスケット」という意見も出ていました。送る側も送られる側も、相手を思う気持ちがあふれ、始終温かい気持ちで大切な時間を過ごさせてもらい、あらためてひがっ子のすばらしさを実感しました。



また、送る会のプログラムの一つとして校旗・交通班旗引き継ぎ式を行いました。交通班旗引き継ぎ式では、6 年生代表が班旗を渡し、5 年生代表が「みんなの安全を守って登校できるよう、がんばります」と言葉を述べました。また、児童会長から 5 年生の計画委員に校旗が渡され、児童会長から「この志方東小学校の良き伝統を守り続けてください」と声かけられ、それに対し「伝統を引き継ぎ、より良い学校にしていきます」と力強く決意を述べ、志方東小学校の伝統が確実に引き継がれたと感じることができました。

6 年生 第 2 回台湾とのオンライン国際交流実施



4 日(月)9 時 40 分～11 時頃まで、約 80 分にわたり、6 年生が、台湾の台中市大元國小学校と今年度第 2 回目となるオンライン交流を行いました。台湾の学校は、2 月半ばまで約 1 か月におよぶ春節祭の休業があり、時間が制約される中、この交流を実現してくださいました。台湾は新年度が 9 月から始まりますので、今回交流する子どもたちは 6 年生の 2 学期中ということになります。前回第 1 回目に交流した子どもたちとは別の子どもたちです。ということで、あらためて簡単な自己紹介から始めま

した。まず台湾の学校から、名前と好きなことやものを言っていました。好きなこととして「バスケットボール」「バレーボール」「走ること」「音楽」などが聞き取れると、本校の子どもたちは「同じや!!」「オ〜〜ッ!」と反応していました。

次に、お互いが“Canva”で作成したスライドでプレゼンテーションを行いました。内容は学校紹介が主ですが、台湾の子どもたちは、コロナ禍におけるオンライン授業の様子なども紹介してくれ、興味深かったです。途中で上手にクイズも差し込まれていました。本校のプレゼンでは、なんといつてもリズムダンスふれあいコンクール全国第 2 位の紹介が盛り上がり、実際のダンス動画を見てもらいましたが、感想として「アメイジング!」という声が聞かれました。最後に画面越しに記念写真を撮りました。この国際交流は、日本の歴史や文化、自分たちのふるさとについて学ぶ貴重な機会であったと捉えています。今年度の交流は、これで最後ですが、担当同士がこれからも続けていくことを約束して、会を終了しました。 謝謝!! 再見!

台湾:台中市大元國小(Dayuan Elementary School)



6年生 市長表敬訪問してきました

2月27日(火)、6年生が「全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクール表敬訪問」に行ってきました。早めに給食を済ませ、タクシーで加古川市役所まで移動しました。14時からリハーサルが始まりましたが、発表者は緊張気味で言葉を囁んでしまう場面もありました。そして、14時半より本番。司会者より臨席していただいた市長、加古川市議会副議長、列席していただいた教育長、教育指導部参事の紹介がありました。「おめでとうございます」の言葉がけに、子どもたちは丁寧に「ありがとうございます」と答えていました。まず、担任から児童一人ずつ名前を読んで紹介した後、BANBAN テレビより提供していただいた番組映像で、全国大会当日の様子やダンスを見ていただきました。次に、子どもたちが自分たちで作成したスライドを使って、コンクール応募のきっかけから、学んだことなどを説明していきました。発表者は、リハーサルの時より落ち着いた様子で堂々と発表しており、誇らしくなりました。発表について市長から、「きっかけからのストーリーがほぼ完璧で、感心、感動しました」という感想をいただきました。市長、副議長よりそれぞれお祝いの言葉をいただいた後、記念品を贈呈され、最後に記念撮影をしました。予定ではそれで終了のはずでしたが、急遽副議長からのご要望で、ダンスを披露することになりました。幸い音源は YouTube からとれましたが、全国大会の日以降一度も踊っていないので、こちらはハラハラしました。が、心配するほどのこともなく、子どもたちは当日と遜色なく踊り切り、拍手を浴びました。おかげさまで、全員、大変満足した表情で帰校することができました。このような機会を与えてくださった方々、この会を準備万端



を整えてくださった教育委員会指導主事の皆様、そして、子どもたちを応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

なお、この表敬訪問の様子は、3月1日(金)の神戸新聞東播磨版に掲載されました。

リズムダンスで全国2位 市庁舎小6年生が市長訪問

13チームが競った全国大会はオンラインで開催された。この日は、岡田市長とダンスの動画を視聴。児童は、昨年7月から休み時間などを使って毎日約1時間練習したことや、スーパーマンをイメージした振り付けを考えたことなどを紹介し、「諦めず努力を続ければ、夢はかなうと知った」と力を込めた。

岡田市長は「チームで培った経験は、今後新しいことを成し遂げる力になる。さらに大きく成長して欲しい」と激励した。(写真左)

昨年12月の「第11回全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクール」の全国大会で、2位になった市庁舎小(加古川市市役所前)の6年生12人が2月27日、同市役所に岡田市長を表敬訪問した。優勝はしたが、児童は「悔しさをばかに、中学校でも練習したい」と話していた。同校は「発達障害 小学生部門」に所属。ダンスを撮影した動画による審査で、予選を突破した。

全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクール全国大会で2位となり、表敬訪問した市庁舎小6年生12名(写真左)